

# 令和6年度 学校経営計画・学校評価

4月4日提出

10月3日提出

3月14日提出

学校番号

13

岡豊

高等学校

課程

全

高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りをもち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	基本方針	① 予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ② 多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③ 生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④ 各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備
	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針)		【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)
スクール・ポリシー	○ 自分の可能性を信じ、あらゆることにチャレンジできる生徒 ○ 学習に真面目に取り組む、自己の素質や能力などを発展させようとする意欲のある生徒 ○ 規律ある学校生活を送り、集団の一員としての自覚をもち、態度ある行動がとれる生徒 ○ 部活動や生徒会活動、ボランティア活動等に積極的に取り組んだ経験があり、入学後も継続して活動する生徒 ○ 芸術コースでは、芸術全般に興味があり、芸術に関する基礎的な教養、豊かな感性と柔軟な思考を有し、明確な目的意識をもって学習に取り組む生徒 ○ 体育コースでは、トップアスリートまたは指導者等を目指す意欲があり、文武両道の精神に満ち溢れた生徒		○ 生徒一人ひとりの進路選択に対応した教育課程(5類型2コース)を編成 ○ キャリア・パスポートの活用・課題探究活動の展開を通じた課題発見・解決能力の習得 ○ 大学や地域との連携による実践的で体験的な教育活動の展開 ○ 芸術コースでは、芸術文化全般に対する深い理解と共感をもち、新たな創作活動につながる教育の実践と積極的な各種コンクールへの出品、演奏会への出演 ○ 体育コースでは、体育専門科目を設定し高度で質の高い学習指導を行うとともに、大阪体育大学との連携による専門性の高い最新のスポーツ科学を土台とした実践的な教育活動の展開
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力)		

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 B 】	基礎力診断テストにおける上位層については、1・2年C層以上75%を評価指標とし、概ね達成できた。またD3層の割合は、1・2年共に最も少ない状況にある。「家庭学習」について学習習慣が定着していない実態は大きな問題であるので、特に具体的な分析を求めた。引き続き学力の定着や学習意欲の向上に向けての対策が必要であると考えられる。ただし国公立合格者31名、公務員合格17名(3月12日現在)は、評価指標を一方では達成しており、昨年度と比較しても評価できる。基礎学力については、高校だけの問題ではなく小中高の連携が急務だと思う。
【社会性の育成】 評価 【 B 】	評価指標は、達成できていないが向上している。部活動も盛んで一定評価できるが、より高みを目指していきたい。コミュニケーション能力やキャリアデザイン能力の向上について、システム手帳の活用や生徒会活動、コース・類型の特性を活かした地域貢献等が有効に作用したと考える。2月に開催された「高知の企業を知ろう」は、1・2年生合同で開催し、生徒、地元企業(39社)の双方にとってとても良い試みだ。継続的に実施して行くことを期待する。学校全体での生徒への意識づけをお願いしたい。
【チーム学校】 評価 【 C 】	学校振興や不祥事防止について、教職員がチームとして課題解決に取り組んでいる様子が伺える。評価指標となるアンケートの数値は、達成できているものもあるが、少数ながら否定的な回答もある。そのような生徒に対しても丁寧な指導を、引き続きお願いしたい。働き方改革を見と長時間勤務が減少している。部活動では体育系・文科系それぞれにおいても全国レベルの活躍がみられ、個々の資質・個性が十分に発揮できる場が提供されていると思う。タブレットの持ち帰り等も実施され利用率も増加しており、今後も継続的な取り組みに期待する。部活動にはOB等外部講師の人材を確保するなど時間外長時間勤務減少の方法も要。個人情報取り扱い対応等相談しやすい職場環境改善に努めていただきたい。不祥事防止については、新しい職員にも取組の引継ぎをお願いする。

(評価) A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】		
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	現状: 学力幅が大きい。学習習慣の定着が課題 ○C層以上の生徒の増加 ・1年: (66.9%) → (75%) ・2年: (57.8%) → (75%) ○授業外学習時間の増加(1時間以上) ・1年: (28.8%) → (50%) ・2年: (29.5%) → (50%) ○将来のための勉強をしている生徒の増加 (1年84.7% 2年82.2% 3年83.2%) → (90%)以上 ○進路実現 ・国公立大学合格者: (25名) → (30名)以上 ・公務員合格者 : (25名) → (25名)以上 ・就職内定率 : (100%) → (100%)	・観別評価を活用した授業改善(授業改善の3項目の確認) ・One-Weekトライアルを学び直し教材として活用 ・進路補習、スタディーサブ、模試の有効活用。 ・タブレットPCの活用(部活動と学習の両立・家庭学習の推進) ・キャリア・パスポートの活用 ・システム手帳の活用 ・進路検討会を活用した進路支援の推進 ・授業外学習習慣の定着	B	○C層以上の生徒の増加 ・1年: (66.9%)・2年: (57.8%) ⇒ともに(75%) ○授業外学習時間の増加(1時間以上) ・1年: (28.8%)・2年: (29.5%) ⇒ともに(50%) ○将来のための勉強をしている生徒の増加(1年82.8% 2年86.0% 3年89.2%)⇒ともに(90%) ○進路実現 ・国公立大学合格者: (25名) → (30名)以上 ・公務員合格者 : (25名) → (25名)以上 ・就職内定率 : (100%) → (100%) すべてにおいて取組継続中	☆進路実現に向けた具体的な行動活用 ☆家庭学習の定着 【取組内容】 ○生徒へのきめ細かな指示 ○システム手帳の活用 ○模試・検定へのチャレンジ ○進路を目指した学習 ○ICTの活用(すらら等)	B	○C層以上の生徒の増加 ・1年: (66.9%) ⇒ 73.5%・2年: (57.8%) ⇒ 75.7% 目標の75%以上を1年生は達成できていない ○授業外学習時間の増加(1時間以上) ・1年: (28.8%) ⇒ 12.1%・2年: (29.5%) ⇒ 15.3% ともに50%の目標には達していない ○将来のための勉強をしている生徒の増加(1年: 82.8% ⇒ 84.0%、2年: 86.0% ⇒ 88.1%、3年: 89.2% ⇒ 84.7%) ⇒ともに90%には達していない ○進路実現(R7.3.12現在) ・国公立大学合格者: (31名) ・公務員合格者 : (17名)	・学力の向上は、本校の校是である学力・人柄・健康の3本柱の一つ。 ・学習に向かう姿勢、自立学習の力を如何にしてつけるかが課題である。取組項目との連携をすることが必要。 ・課題を発見し、解決する姿勢を含め学び続けることの重要性を伝えていく。
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	現状: 礼節に重点を置いた指導、部活動、学校行事も充実。 ○自分という存在を大切に思える生徒割合(1年: 72.3%、2年: 67.7%、3年: 67.1%) → 80% ○解決に時間がかかっても最後まで考え行動する割合(1年: 90.9%、2年: 85.4%、3年: 89.7%) → 90%以上 ○将来の夢や目標を持っている生徒の割合(1年: 72.6%、2年: 74.3%、3年: 87.2%) → 90%以上	・授業や部活動、システム手帳、キャリア・パスポート等による生徒の見取りと助言 ・生徒会活動やコース・類型の特性を活かした地域貢献 ・総合的な探究の時間の充実 ・授業や部活動、学校行事やボランティア活動、校外活動の場での礼節を重んじる指導の充実 ・生徒・保護者・教員による不断の校則の見直し	B	○県オリジナルアンケート第1回 ⑧(1年: 88.4%、2年: 89.0%、3年: 87.1%) ⑨(1年: 84.4%、2年: 86.9%、3年: 90.6%) ⑩(1年: 74.8%、2年: 77.0%、3年: 86.4%) 全項目でおおむね8割以上を達成。 ○システム手帳の活用状況 継続的に指導	☆質問項目の生徒への意識付け ○キャリアパスポートでの振り返り ○体育祭、文化祭、修学旅行、総探の発表等や校外活動を通して、生徒に目標を持たせ、体験をさせることで生徒の主体的な活動を促す。 ○3年生が進路に向け主体的に活動できるよう支援をする。 ○システム手帳の活用については、進路実現に向けて有効に活用できるよう集會等で意識付けを行っている。	B	○県オリジナルアンケート第2回 ⑧(1年: 85.4%、2年: 90.2%、3年: 87.6%) ⑨(1年: 84.1%、2年: 92.1%、3年: 90.6%) ⑩(1年: 75.0%、2年: 80.1%、3年: 88.6%) 全項目でおおむね8割以上を達成。 ○進路実現にはOB等外部講師の人材を確保するなど時間外長時間勤務減少の方法も要。個人情報取り扱い対応等相談しやすい職場環境改善に努めていただきたい。不祥事防止については、新しい職員にも取組の引継ぎをお願いする。	・部活動も盛んであり、学校行事も充実している。学年を超えたこれらの活動を通して社会性を学ぶことが出来ていると考えられる。今後も校外でのボランティア活動への積極的な参加を推奨していく。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	現状: 総合的な探究の時間や各教科で取り組んでいる。 ○地域や社会をよくするために考える生徒(1年: 64.3%、2年: 53.1%、3年: 64.4%) → (75%) ○地域や社会のために行動する生徒(1年: 43.8%、2年: 31.3%、3年: 38.8%) → (50%) ○ボランティア等に参加した生徒割合(30%)	・地域行事やボランティア活動等への参加による社会参画意識の醸成	B	○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携 ・地域行事やボランティア活動等への参加による社会参画意識の醸成	B	○地域や社会をよくするために考える生徒(1年: 66.4% ⇒ 67.0%、2年: 62.6% ⇒ 66.3%、3年: 66.9%) ⇒ 69.5% → 伸びてはいるが目標(75%)には達していない ○ボランティア等に参加した生徒割合(1年: 20.9% ⇒ 38.2%、2年: 50.2% ⇒ 49.6%、3年: 60.3% ⇒ 69.1%) ⇒ 学年を追い越している。 ○「高知の協業を知ろう」: 1・2年生へ39企業が説明会を実施し、生徒のキャリア教育を推進した。	・生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ・地域・関係機関との連携 以上2点を継続し、地域行事やボランティア活動等への参加による社会参画意識の醸成を促す。	
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	現状: 総合的な探究の時間や各教科で取り組んでいる。 ○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を設定(学期に1回以上) ○「総合的な探究の時間」における教科横断的な探究活動の割合(50%以上)	○探究活動等を通じた人材育成 ・外部講師等を活用した課題解決学習の推進 ・企業や大学と連携したデジタル技術や研究分野等の学習(講義訪問)の推進	B	○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を設定(学期に1回以上) ○「総合的な探究の時間」における教科横断的な探究活動の割合(50%以上) すべてにおいて取組継続中	B	○総合的な探究の時間1年生は、クラス別に企業訪問を実施し、企業への提言をプレゼン形式で実施。2年生は個人研究課題を設定し、代表による発表会を実施 ○外部講師等を活用した課題解決学習を実施 ○DX事業を活用し、体育コースは大阪体育大学訪問を実施	・総合的な探究の時間をベースにDXを活用した情報分野だけでない教科横断的教育を構築し、生徒たちのキャリア教育につなげる。	

		取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○部活動の活性化により礼節を重んじる態度や仲間と協働する力、主体的に取り組む姿勢を育成する ○生徒たちが生き生きと学校生活に取り組みめるような環境の実現	○全国レベルの大会(コンクール)昨年度の実績以上(R5: 延べ20競技・部活動) ○学校評価アンケートの部活動に関する設問の肯定的回答 90%以上(R5: 生徒94.8%、教職員78.6%、保護者92.9%) ○1日あたりの平均授業外学習時間(R5: 1年30分・2年31分) → 1時間以上	・HP等の活用による積極的な情報発信 ・活動の成果を発表、紹介する場面の設定 ・部活動支援事業を活用した指導の充実 【文化部活動サポート事業、運動部活動指導員派遣事業】 ・ホーム担任や教科担当教員等と連携した文武両道に向けた組織的・計画的な指導	A	・HPへの部活動職員の定期的な掲載 ・岡豊高校オープンキャンパス実施 28校 147名参加 ・中学生1日体験入学 59校 618名参加(前年より103名増) ・国際大会出場1名 ・IH7競技27名出場/総文5部門41名出場/全国ワープロ競技1名出場/国体ソフトボール サッカー2名、女子バスケット1名、男子セーリング1名、男子柔道4名、女子バドミントン1名出場予定 ・四国大会10競技96名出場。優勝1名/準優勝1団体、個人1名/その他入賞6名	B	・学校評価アンケートの部活動に関する設問の肯定的回答生徒94.8%、教職員78.6%、保護者92.9% 例年とほぼ同じ保護者の数値がR4より+4.9上昇(R4実績: 生徒94.4%、教職員79.5%、保護者88.1%) ・女子バスケ ウインターカップ出場(ベスト16) ・剣道部 男・女 全国選抜出場決定 ・レスリング 個人 全国選抜出場決定 ・かかわ総文 合唱、吹奏楽、ギター、書道、美術(工芸)、文芸出場決定 ・高知県児童生徒表彰個人3名・1団体受賞	・これからの10年も文武両道を目指して、関係機関・事業を活用しながら部活動の振興に努める。 ・岡豊高校らしさを外部へ積極的にアピールしていく。
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	現状: 全教職員に対し法令順守や個人情報の取り扱いなどについて注意喚起を行っている。 ○校内研修の実施回数(3回) ○不祥事防止委員会の実施回数(3回)	・個人情報を取り扱う際の事務処理体制の確認 ・既存の会議等での法令遵守やハラスメント防止の意識喚起 ・相談しやすい職場環境整備	B	○校内研修 1. 防災避難訓練(R6.4.10(水)) 2. 教職員救急法講習会(R6.5.29(水)) 3. 人権研修(R6.8.29(水)) ○不祥事防止委員会の実施回数 4月当初組織職員会、6月不祥事防止月間	C	○校内研修 1. 防災避難訓練(1回) 2. 教職員救急法講習会(1回) 3. 人権研修(1回) ○不祥事防止委員会の実施回数(3回)	・日頃からの声掛けを徹底し、併せて研修や防止月間を設けて意識づけを継続的に実施していく。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○限られた時間の中で、授業改善や生徒に接する時間を十分確保し教育効果を最大限に発揮できる環境を整備	現状: 4月から1月まで述べ超過人数142名 ○各月の時間外勤務の上限時間45時間以上の職員(15名以下) ○時間外勤務の上限「年間360時間を超える教員数」20名以下(R5: 36名)	・OJTの観点から分掌の枠にとらわれず全員で担当できる業務を精選 ・勤務時間管理システムへの確実な入力 ・年間計画に定時退校日の設定及び学校閉鎖日の設定 ・部活動方針による活動時間と休養日の順守 ・業務の見直し	B	○時間外勤務「月100時間又は連続した月80時間」該当者 0名(R5: 2名) ○月45時間を超える教員数 4月〜8月: 延べ61名 昨年度に比べ減少傾向(R5: 62名)	B	○月45時間を超える教員数 4月〜1月: 延べ127名 昨年より減少(R5: 133名)	・時間外勤務は、休日などに部活動をするに超過する。引き続き教職員のオーバーワークの抑制に努めることが命題。